



熱々の鍋料理を満喫(6面に関連記事)



CONTENTS

- P2** ひらた旭川荘10年誌刊行
- P3** 製品プロジェクトチーム発足
- P4-5** 震災から3年 愛媛で講演会
- P6** やたかの里りんご通信
- P7** 縄田さんにスポーツ栄誉賞
- P8** 親和会芸術祭

旭川荘 だより

vol.

187

2014.03.01 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
<http://www.asahigawasou.or.jp>



岡山南ロータリークラブ「中島櫻」植樹式(8面に関連記事)



「旭川荘2030」から逆算のとき

理事長 末光 茂

わが国では、少子・高齢化に加え人口減少が進み、2030年に大きく顕在化すると指摘されています。ただし、同じ人口減少といっても、地域間での大きな違い・格差がすでにかがえます。東京から大阪に至る太平洋ベルト地帯は、それほど大きな減少でないのに対し、地方とくに岡山県の県北や愛媛県の南予地域での減少スピードには、顕著なものがあります。愛媛県鬼北町(人口約1万1000人)では、年間200人前後の人口減少が進んでいます。

それだけに「旭川荘」は、医療福祉だけでなく関連分野でも、旭川荘ならではの役割を、それぞれの地で果たさねばなりません。

第3代理事長に就任して7年が経過しようとしています。初年度は「混乱なき継承」、2年目は「選択と集中」、3年目は「コアコンピタンス」をテーマにし、4年目には「旭川荘中期7か年計画」を発表しました。療育・医療センターの建設、旭川学園の全面建て替え、真庭療育センターの開設など、着実に具体化をはかり、乳児院の建て替え、ひらた旭川荘の再整備、備中支部ならびに愛媛支部での新たな展開等に向けた調整も進みつつあります。

ただし、これらは現状から将来を見通した視点での取り組みにとどまると、言わざるを得ません。

それに対し、2030年のわが国そして岡山県・愛媛県のあるべき姿と、そこで旭川荘が果たさねばならない役割を多面的に検討し、チャレンジすることもあわせて必要です。少子・超高齢化に加え、地域によっては3～4割の人口が減少する2030年から逆算した、新たな視点に立ったアプローチが不可欠です。

今年旭川荘60周年記念式典ならびに川崎祐宣初代理事長生誕110周年の記念すべき年です。悔いのない1年にしなければなりません。



ひらた旭川荘10年誌を刊行



ひらた旭川荘は、旭川荘が旧岡山県総合社会福祉センターの施設部門を県より受託してから、昨年度で10年の節目を迎えました。これを記念して「れんが道 継承から発展—ひらた旭川荘運営10年のあゆみ—」を2月に刊行し、荘内の各施設や関係先に配布しました。

「れんが道」とはひらた旭川荘敷地内の各施設を結ぶ、れんがを敷き詰めた通路で、ひらた旭川荘を象徴する風景です。この「れんが道」は、ひらた旭川荘で起こった全ての出来事を1日も欠かすことなく眺めてきました。そんな「れんが道」に10年間の思いを託し、今回の記念誌の表題としました。

本誌は写真を中心に構成しており、さまざまな出来事が一目で分かる冊子です。

ひらた旭川荘の10年を振り返り、来るべき新たな10年に思いをはせる契機になることを願っています。



10年のあゆみを紹介する記念誌

製品販促プロジェクトチーム発足

旭川荘製品の販路拡大、品質向上等について考える「製品販売促進プロジェクトチーム」が発足し、1月22日に初会合を行いました。

旭川荘では、10以上にわたる施設で、木工、切り絵、織物や、アクセサリー、日用雑貨、食器、パンやクッキーなどの食品、農産物など数多くのものを作っています。こうした活動は、利用者の工賃収入に結びつくほか、障害者のモチベーションの向上や製品を通じた障害者への理解促進のために重要な役割を果たしています。

昨年4月には「障害者優先調達推進法」の施行にあわせて、製品カタログやサイトを新たに作成し、施設横断的な製品のPRに取り組んでいますが、その過程で多くの課題も見えてきました。

そこで、各施設の製品担当者などが集まって協議を行うプロジェクトチームを設置することとなりました。プロジェクトチームでは、人気上昇中の吉備ワークホムの木製日本地図パズルや帆布バッグ、愛育寮の結び織りマットなどの事例も参考にしながら、次の事項を検討する予定です。



- ・いわゆる福祉的な製品ではなく、消費者に評価される品質やデザイン
 - ・カフェでの展示販売、繁華街で開催されるマーケットや各種イベントへの出店など、新しい販路の開拓と客層に合わせた出品物の選定
 - ・利用者の工賃向上に結びつけられるような適正な価格設定、原価計算
 - ・他施設の先進的事例の研究
 - ・ネット販売やアンテナショップなど新たな展開の検討
- 今後、定期的に会合を開き、議論を深めていきます。



製品販売促進プロジェクトチームの初会合

さんかく岡山で「写真・作品展」

1月29日から2月3日の間、岡山市北区表町の新西大寺町商店街にある、さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）のギャラリーコーナーにて旭川荘「写真・作品展」を開催しました。

施設の紹介や、利用者が真剣に作業に取り組んでいる姿、笑顔がこぼれる日常の一コマなど、暮らしの様子を伝える写真を持ち寄り、展示しました。また、各施設のハンドメイド製品も並べ、訪れた人たちに見ていただきました。



施設の写真や製品が並ぶ会場

「木曜日」でイベント&製品PR

写真・作品展期間中の1月30日に、新西大寺町商店街で定期開催している「木曜日」に初出店しました。

商店街のアーケードの真ん中のスペースを使い、野菜や果物、漬物などの食品から、衣類やアクセサリーなど様々な店が並ぶ中、旭川荘ブースでは荘内12施設が出品した「おすすめ商品」を展示販売しました。

乾燥しいたげやクッキー、おしゃれホウキ等が好評で、「素敵なので、プレゼント用に」と額装の七宝焼き製品を買ってくれた人も。販売時には「写真・作品展」のチラシも配って来場を呼び掛けました。中には先に写真・作品展の展示を見て「唐子人形は売ってないかなあ?…」と、木曜市のブースをのぞいてくれた人もいました。

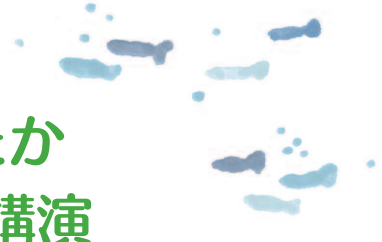
当日は小雨が降るあいにくの天気でしたが、木曜市は活気に満ちあふれていました。



木曜市の旭川荘ブース



東日本大震災 障害者施設で何が起きたか 石巻祥心会・斎藤康隆氏が講演



東日本大震災から3年一。大規模災害時の対応や地域連携をテーマにした、南愛媛療育センター主催のセミナーが2月1日、宇和島市で開かれ、社会福祉法人石巻祥心会(宮城県石巻市)の斎藤康隆氏が「東日本大震災72時間とその後 障害者施設で起こったこと」と題して講演しました。要旨を紹介します。

私の暮らす石巻市は宇和島市の倍くらいの規模の町。震災前の人口は16万2822人(平成23年2月末)だったが、現在は15万966人(同26年1月)と1万2000人くらい減っている。震災で亡くなった方のほか、市外転出など人口の流出が続いている。

東日本大震災の死者、行方不明者は約1万8600人と発表されている。石巻市は死者、行方不明、震災関連死等を合わせて約4000人弱。隣接する東松島市、女川町を加えると約6000人が亡くなった。震災による死者の3分の1は私の暮らすエリアの人たちだ。この2市1町の人口は計20万人で、うち3%が死亡。約30人知り合いがいたら1人は亡くなっているということだ。

地域のために何でもやる

私たちの「石巻祥心会」は平成3年に法人認可を受けた。知的障害者の入所更生施設からスタートし、現在は10ヵ所くらいの施設で、地域に暮らす障害児・者へのサービス提供を行っている。

法人では震災のあった3月11日に事業所6ヵ所を避難所として開放、利用者とその家族約180人が避難した。炊き出しもその日から始まった。翌12日には法人本部と仮設入所施設に、近隣の被災した地域住民150人を受け入れた。13日には入所施設「ひたかみ園」に福祉避難所を設置、石巻赤十字病院(日赤)から障害者を受け入れ、避難所訪問もスタート。14日にはボランティアの受け入れも始めた。

理事長は常々「ここで仕事ができるのは地域のおかげだ」ということを言っていた。震災が起きた時も「地域のために、できることは何でもやろう」というスタンスだった。実際に、いろいろなことをした。福祉施設の倉庫にはガスボンベや、ちょっと直せば使えそうなものが結構ある。それを改造して回転釜に仕立てて、ゆで卵をいっぱい作ったり、甘酒を温めて配ったり。発電機を使ってパンを焼いたこともある。自分たちの食料がままならない時でも、とにかく「地域に配れ」とやっていた。

法人では300~400人の避難者を抱えていたので、生活用品などの支援物資を分けてもらうために、石巻市役所に

たびたび交渉に行った。震災当時、私は施設の管理者をしていたが、その前は10年くらい相談支援を担当していたこともあり、何人かの市役所職員とは顔を合わせて仕事をする機会があった。そのため混乱した中でも、知っている人間ということですんなり話を聞いてもらった。相談支援をしている人たちは、行政職に顔が利く人間として、こうした使命があることを覚えておいてほしい。

自衛隊の物資庫には毎日トラックで行って、食料や日用品をもらってきた。当時の避難所は1000人規模だったので、企業からも1000個単位で物資が届き、巨大な倉庫の中で品目ごとに細かく分類されていた。一方、被災地のために何かしたいと思う一般の人からは、ミカン箱サイズの箱にカップ麺や缶詰を詰めて、手紙を添えたものが届く。それがいっぱいあるが小口で中身がバラバラなため自衛隊は扱いに困っていた。私たちが必要としたのは、まさにそのミカン箱だった。法人には400人いたが、4、5人単位で避難する場所ができていたので、各所へ届けて回るのに、小口のミカン箱は非常に有り難かった。

通所施設であったこと

震災当時、私は重症児の通所施設「第二ひたかみ園」の管理者をしていた。3月11日は金曜日で利用者の大半が余暇活動をしていた。地震が起こったのは夕方を送迎前。最初は電話で、どこに何人いるといった確認もとれ、けが人がないことも分かった。ただ、テレビで流れていたような町と海が一体化したような石巻の状況は私の頭にはなく、結構長い揺れだったので送迎車を出していいものか迷っていた。外に出ていたグループが戻ってきて、道路が渋滞し、信号も付いていない等の状況が少しずつ分かってきた。「送迎は難しいので、ここで1泊しよう」と宿泊の準備にかかった。この間、防災無線を聞いた覚えはないし、津波などの情報も入ってこなかった。利用者35人と、迎えに来た保護者8人、職員12人で共同生活が始まる。最初は安易に考えていたが、結局、ゴールデンウィークのころまでこうした避難生活が続くことになる。

水がない、電気がない、そして寒かった。特に困ったのは





講演する石巻祥心会・斎藤康隆氏

薬だった。刻一刻と生死にかかわる事態が起こる。12日に日赤に行って、処方依頼をしたが、病院でも十分な量の薬があったわけではない。その日、利用者の一人が発作を起こした。看護師が付き添って野戦病院化している日赤に一晩泊まり翌日戻ってきた。その後、再び容体が急変したため緊急搬送したが、病院で亡くなった。利用者の母親とともに霊安室で待っていると、他県から応援に来たと思われる「医師」「看護師」と書かれたベストを着た人たちが入ってきて、検案を終えると手を合わせて出て行った。その後「心理職」のベストを付けた人が入ってきて「お母さん大丈夫ですか」と話しかけてきた。亡くなった利用者の人生を見てきた人ではなく、初対面の専門職が突然やってきたことに非常に違和感を覚えた。

震災でたくさんの方が亡くなったのを見たり聞いたりしたが、

私自身、人の死では泣けなかった。人の死を見て悲しい、悔しいではなく、仕方がないというあきらめだったり、なぜか怒りのような感情があった。逆に生きている人に会って、喜んで泣けた。

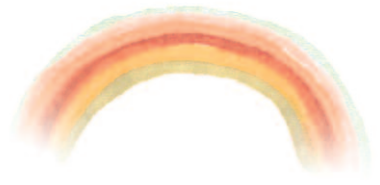


まず自助、そして共助、公助

今、私は石巻市・女川町障がい者総合サポートセンターに出向して、仮設住宅、民間住宅の訪問相談を担当している。震災から3年も経つと、家を建て直して少しずつだけ生活が軌道に乗ってきている人と、生活再建の目途が全く立っていない人との格差が出てくる。震災当時は「自分も被災したから」と話が聞けた。でも、今は再建できない人の話を聞くのが苦しい。

今回の震災の体験を通して思うのは、まずやらなければならないのが自助。とにかく自分で何とかするしかなく、公助に求めても仕方がない。自助が大事だということこそを認識し、そこから一人一人がどうやって共助の輪を広げていけるかを考えていく。その上に公助がある。こういう構造を認識していかなければと思う。

震災があった日から季節は巡り、時間だけは3年経過しようとしている。震災前の石巻に戻ることはできないが、利用者も私たちも3年分たくましくなっている。これからも地域の中で笑顔を作っていきたいと思う。



福島県被災者支援 24年度の報告書を発行

旭川荘は、平成24年度の福島県被災者支援活動に関する報告書(A4判、46ページ)を発行しました。

旭川荘では「ふくしま心のケアセンター」の要請を受けて、有志職員を同センターに派遣し、被災者支援活動を行っています。初年度の24年度は、2週間交代で延べ23人の職員が、福島県双葉町民の避難先である埼玉県加須市で活動しました。

報告書では、埼玉県、茨城県の300件近い被災者宅の訪問調査や、避難所でのリフレッシュサロンの運営支援、行政や社会福祉協議会、ボランティア団体との連携の状況といった具体的な活動記録のほか、活動に携わった職員の生の声、感想などを掲載しています。この報告書によって旭川荘職員が経験を共有し、今後の業務運営に活かしていきたいと考えています。

報告書は300部作成し、荘内各施設に配布しています。閲覧等をご希望の方は、各施設または企画広報室(旭川荘代表 086-275-0131)までご連絡ください。

なお、福島県では原発事故の影響もあり、中長期的、継続的な心のケアが必要な被災者が未だ数多い状況ですが、ケアに携わる専門職の不足が続いています。旭川荘では、25年度は福島県会津若松市に拠点を移して支援活動を継続しています。さらに26年度は、福島県いわき市に活動拠点を移し、職員の派遣期間も1年間とする予定です。



埼玉県加須市での支援活動をまとめた報告書

豊作願って、剪定作業



私たちの食卓を彩る代表的なフルーツのりんご。望の丘ワークセンターでは管理する「やたかの里りんご園」で、“極上のりんご”を目指して栽培に取り組んでいます。これから約1年間にわたり、製品サイト「ぎおんの杜から…」(<http://asahigawasou.com/>)のブログと連動し、利用者と職員のリんご栽培奮闘記をお伝えします。

広島県との県境に位置する高梁市川上町。ひと際高くそびえ、山頂から雲海が見えることで有名な弥高山の丘陵部に「やたかの里りんご園」はあります。標高は約400メートル。岡山市と違って冬に雪が積もることがあり、多い時には20センチの積雪になります。

実を収穫し、葉もすっかり落ちてしまったりんごの木にとって、この寒い季節はとても重要。秋の収穫に向けて「剪定」を行う時期になります。余分な枝を切り落とすことで果実に均一に日光が当たり、立派なりんごが育ちます。「りんごの1年はここから始まる」—真っ赤なりんごがたわわに実るかどうかは、この「剪定」にかかっていると職員は話します。

雪が残り、凍てつく寒さの1月6日。利用者2人、職員2人で今年最初の剪定作業を行いました。木に梯子を掛け、枝の向きや長さを丁寧に観察。葉や実がなる状態をイメージしてから一本一本慎重に枝を落としていきます。ハサミやノコギリを使っての手作業で、太い枝を切るにはコツも握力も必要です。天候に左右されるため、園内300本すべての剪定が

終わるには約1～2ヵ月掛かります。

収穫時だけが本番ではありません。寒空の下、実りの秋を願って、地道な作業は続きます。



りんごの枝を剪定する利用者



Memo

やたかの里りんご園



平成13年に川上町から旭川荘へ移譲され、「やたかの里りんご園」として望の丘ワークセンターが管理、運営。現在は150aの畑でりんご300本、梨100本を栽培している。

○品種 ふじ、王林、秋映、紅将軍 ほか

○お問い合わせ(土日祝日を除く)

望の丘ワークセンター

高梁市川上町上大竹1231 TEL 0866-48-3080

鍋料理で心も体もぽかぽか — 吉備ワークホーム、竜ノ口寮で「鍋会食」

熱々の鍋で寒い冬を乗りきろうと、吉備ワークホームと竜ノ口寮で2月恒例の「鍋会食」が行われました。

旬の食材といつもは食べられない「温かい」食事を利用者に味わってもらうために、管理栄養士らが昨年末から計画。



カニ鍋を味わう利用者

当日食べる鍋の種類は、定番から個性派鍋まで幅広い候補から多数決で決定しました。

2月6日の昼食に鍋会食をした吉備ワークホームでは、「カニ」「塩ちゃんこ」「チーズ」の3種類の鍋を準備。「カニ」には春菊としらたき、「塩ちゃんこ」には豚肉とニラ、「チーズ」にはキャベツとウインナーなど、それぞれの鍋に合った食材が用意されました。

職員が手際よく仕込んでいく側で身を乗り出してのぞき込む人、「鍋奉行」を買って出る人もいて、食べる前からにぎやかな食卓に。完成した鍋の蓋を開けると湯気が立ち昇り、拍手とともに歓声があがりました。「美味しい」「温まる」など、会話も楽しく弾む中で、カニ鍋組だけは黙々とカニの身をほくしていました。最後は食材の旨味がたっぷりしみ出た残り汁にご飯と卵を入れ雑炊に。用意された食材はすべて完食しました。

粉雪が舞う寒い日にもかかわらず、窓ガラスも白く曇るほどの熱気で、この季節ならではの味覚に舌鼓を打っていました。

旭川荘管理栄養士のいきいき健康レシピ

黄ニラばら寿司とはまぐりのお吸い物

ご当地グルメで食卓に彩りを

〈材料〉4人分

黄ニラばら寿司

米	2合	☆ 酢	大さじ2と1/3
合わせ酢		砂糖	大さじ1と1/3
}	酢	干びょう	4g
	砂糖	人参	中1/2本
	塩	焼穴子	1尾
えび	8尾	黄ニラ	1束
さわら(酢魚用)	12切	絹さや	12枚

栄養量:1人分

エネルギー:434Kcal
蛋白質:18.4g
塩分:3.7g



はまぐりのお吸い物

はまぐり	8個	薄口しょうゆ	小さじ1
水	カップ4	みりん	小さじ1/2
だし昆布	1枚(10cm角)	塩	小さじ1/2
酒	大さじ1	みつば	少々

〈作り方〉

黄ニラばら寿司

- ①えびは茹でて殻を取り、腹開きにし、☆にさっとぐらせ下味をつける。さわらは、塩(分量外)をひとつまみ振ってしばらく置き、☆に漬けておく。
- ②干びょうは、ひとつまみの塩(分量外)でもみ、水で戻して小口切りにする。人参は、千切りにする。
- ③②をだし(分量外)で煮る。
- ④焼穴子はそぎ切りにする。黄ニラと絹さやは、さっと茹でる。

- ⑤炊いたご飯に合わせ酢を回しかけ、ご飯を切るように混ぜる。荒熱が取れたら③を入れて混ぜる。
- ⑥⑤を皿に盛り、えび、さわら、焼穴子、黄ニラ、絹さやを彩りよく盛りつける。



〈作り方〉

はまぐりのお吸い物

- ①鍋に分量の水、だし昆布、はまぐりを入れて、中火にかける。
- ②だし昆布は沸騰直前に取り出す。酒を入れて弱火にし、アクを取り、はまぐりの口が開いたら椀に取り出しておく。
- ③②に、薄口しょうゆ、みりん、塩で味をつける。
- ④③を椀に注ぎ、みつばを散らす。

岡山名物「ばら寿司」は、数種類の具を混ぜ込んだ寿司飯に、えび、焼穴子、錦糸玉子などで色鮮やかに盛りつけるのが特徴です。今回は、錦糸玉子のかわりに「黄ニラ」を使ったご当地グルメ「黄ニらばら寿司」を紹介します。

岡山での生産量が全国の7割を占める黄ニらは、太陽光線を遮断して栽培します。そのため、青ニらに比べて食感は柔らかく、味もほのかに甘く、香りは上品です。食物繊維やビタミンCが多く含まれます。さっと茹でて、サラダのトッピングにしたり、鍋物、汁物、炒め物、ピザなどの具材にしたりと幅広く使えます。

3月は桃の節句や卒業式など、お祝い事の多い季節です。手作りのお寿司でお祝いしてみませんか。(竜ノ口寮 野間淳子)



ばら寿司は、季節の材料を色々使えば、楽しいものです。寿司飯に「おもゆ」を少し加えると、ばさつかず、喉ごしが良くなります。



縄田さんに「スポーツ栄誉賞」岡山市が人見絹枝顕彰で

昨秋の全国障害者スポーツ大会卓球競技で優勝した、ぎおんハイツの縄田聖矢さんがこのほど、「第13回岡山市人見絹枝スポーツ顕彰」の「スポーツ栄誉賞」を受賞しました。

同顕彰は、岡山市出身で日本女子初の五輪メダリスト人見絹枝さんをたたえ、平成13年に創設。国内外のスポーツ大会で優秀な成績を収めた個人、団体等を表彰しており、今回は個人32人と6団体が選ばれました。

縄田さんは2月22日、ふれあいセンター(岡山市南区福田)であった表彰式に出席。大森雅夫岡山市長から表彰状と記念品を贈られ「学生の時と違い、仕事をしながら競技を続けることは大変。受賞できてうれしい」と喜びを語りました。

縄田さんは岡山県立南支援学校高等部時代にも同賞に選ばれており、4回目になります。



スポーツ栄誉賞を受賞した縄田さん

職員の力作298点 親和会芸術祭開催

旭川荘の職員が趣味で制作した作品を披露する「親和会芸術祭」が1月20日から27日まで、旭川敬老園地域交流ホールで開催されました。

会場には絵画や工芸品、手作り雑貨などの応募作298点を展示。個性あふれる作品は、いつも接している職員の仕事の顔とは違った一面が見られると利用者や同僚を楽しませていました。

展示の中から芸術賞、特別賞、来場者賞などの10作品を投票で決定。最も優れた作品に贈られる親和会会長賞には、いきいきと泳ぐ鯉とハスの花を繊細な切り絵で表現した、みどり学園保育士祐森晶子さんの「鯉と蓮」=写真上=が選ばれました。

親和会は職員同士の親睦を深めることを目的に昭和61年に設立。クラブ活動への助成や交流会の企画などを行っており、その一環として、芸術祭を毎年開催しています。



個性あふれる作品が並ぶ芸術祭会場

岡山南ロータリークラブが「中島櫻」を植樹

岡山南ロータリークラブ(RC)による桜の植樹が2月18日に行われました。

はじめに「ゆずりはの森」において、同RCに所属し、長年にわたり旭川荘友の会会長として多大なご支援をくださった故中島保氏の功績を讃え、「中島櫻」と命名された桜(ソメイヨシノ)が中島美子夫人や同RCの会員によって植樹されました。そしてカリヨン演奏で、記念碑も除幕されました。

続いて総合在宅支援センターにおいて、ソメイヨシノ2本、しだれ桜1本が植樹されました。尾崎敏之会長は「利用者の皆さんに喜んでいただいております、我々もうれしい」と挨拶。植樹は今年で17回目、桜は85本となり、旭川荘に春のにぎわいをもたらしています。



「中島櫻」記念碑の除幕

アートギャラリー常設展2014(春)

第4回特別展に寄せられた応募作品323点の中から特別展各賞受賞作品と未展示作品計42点を紹介しています。

日時:2014年2月27日(木)~5月23日(金)
場所:旭川荘アートギャラリー

障害のある人の県庁アートギャラリー

障害のある人の作品を、多くの人に鑑賞してもらうために岡山県が2013年から始めたイベント。旭川荘は2回目の出展で、厳選された5作品を展示。作品は1ヵ月ごとに入れ替えるので、毎月楽しめます。

日時:2014年3月3日(月)~9月30日(火)
場所:岡山県庁1階県民室

※県庁閉庁日は除く

お問い合わせ(土日祝日を除く) 旭川荘アートギャラリー
岡山市北区祇園866 TEL086-275-4647(旭川学園内)

旭川荘ごよみ

SCHEDULE CALENDAR

3月

- 5日 川上小学校交流会 ……望の丘ワークセンター
- 6日 第42回卒業証書授与式 ……旭川荘厚生専門学院
- 13日 第31回つばさコンサート ……旭川児童院
- 20日 旭川荘評議員会・理事会 ……旭川荘
- ☆ ひな祭り行事 } 各施設
- 卒業・卒園行事 }

4月

- 1日 辞令交付式 ……旭川荘
- 3日 入学宣誓式 ……旭川荘厚生専門学院
- 19日 合同春まつり ……かわかみ療護園
望の丘ワークセンター
- 26日 第31回旭川荘子どもまつり ……旭川荘
- ☆ 花見行事 } 各施設
- 入学・入園行事 }



編集後記

旭川荘だよりのバックナンバーを見せてもらえる機会がありました。その紙面には当時のいきいきとした利用者、職員、ご協力いただいている皆さんの姿があり、時代の流れとともに、荘として力を入れていたこと、当時の担当者の思いなどが、ひしひしと伝わってきます。紙面の雰囲気も一新した中、今後も旭川荘のあるがままの変化を皆さんにお届けしたいです。(広報委員 長壽)